

「生き抜く力」を育む園小中一貫教育

シアトル派遣からのつながり

9月に就業体験（インターンシップ）で日南町役場に日南中学校卒業生の高橋里奈さんが来てくれました。高橋さんはシアトル派遣経験者でしたので、派遣が与えた影響やその後の変化についての体験談をご紹介します。

インターンシップを体験中の高橋です。私は中学2年生の当時、海外にあまり関心がなかったのですが、家族から勧められ、日南町の海外派遣プログラムに参加しました。シアトルに行く前は、「初めての海外」、「一人でのホームステイ」ということで不安に思うことがたくさんありました。しかし今では、英語だけで会話する環境で異文化を体験できたことはとても良かったと感じています。当時の私は英語を本格的に学び始めて2年目ということもあり、英語力が低く、自分の英語力に自信がなかったことから、翻訳アプリに頼り簡単な英語で話すことがほとんどでした。帰国後、このことをとても後悔し、英語学習を頑張るって英語力を高めようと思うようになりました。そして学習に励むうちに、その楽しさを知りました。高校に進学後も学習を続け、英語検定2級を取得することができました。また、語学の他に海外の文化にも興味があったことから、今は大学で国際文化学を学んでいます。振り返るとシアトルのホームステイ先で復活祭（イースター）のエッグハントを経験したことも現在の学びにつながっていると思います。

シアトルに派遣された人は高橋さんの記事に共感する人が多いと思います。まずチャレンジすることで道は開かれます。今後、チャンスがある人はシアトル派遣に挑戦してほしいです。また、英検受検への補助制度がありますので、積極的に利用してください。



社会教育あれこれ

今こそ知りたい！民謡のじつ

〜ねんりんピック・日南町は民謡大会〜

全国健康福祉祭（愛称・ねんりんピック）は、スポーツや文化種目の交流大会を通じて、高齢者を中心とした健康保持・増進、社会参加、生きがいの高揚等を図ることを目的に、昭和63年から毎年開催されています。鳥取県で初めての開催となる本年、日南町では民謡を種目として交流大会を開催します。

■鳥取県の民謡

庶民が古くから日本各地で歌い継いできた民謡には、辛い労働を紛らわせるために歌った労働歌をはじめ、祝い唄・盆踊り唄・お座敷唄・子守歌などがあります。しかしながら、社会情勢や生活の急激な変化により、生活の中から生まれきた多くの民謡は次第に歌われなくなり、郷土の文化が失われつつあります。

鳥取県で有名な民謡のひとつに「貝殻節」があります。大正末期から昭和初めにかけて、日本海一帯に帆立貝などが大量発生しました。相次ぐ出漁は大変な重労働であり、その辛さを少しでも忘れようと歌われたのが貝殻節でした。貝殻節は、大会でも歌われる予定ですので、ぜひ会場にお越しください。

だき、歴史に思いを馳せながらご鑑賞ください。

■日南町の民謡

「田植歌」は、日野川流域の市町村でも多くの曲が歌われていました。日南町では朝歌（かしら歌）から始まり、さんばいおろし、大山歌、飯前歌（こちけ歌）、昼飯後歌（はしま歌）、物語歌、晩方歌（ばんげ歌）と順々に歌われていました。

戦後、農業の機械化に伴い歌声も消えていきましたが、それぞれの地域で調子や歌詞の異なる歌が伝わっていることから、当時の人々に深く親しまれてきたことがうかがえます。

今回のねんりんピックを通じて、郷土の文化や歴史に目を向けてみてはいかがでしょうか。

ねんりんピック 民謡交流大会開催日

令和6年

10月20日（日）

開始式 10:00～

交流大会 10:40～

会場

日南町総合文化センター
さつきホール

